

体を動かす楽しさ

園長 篠澤 恵理

園庭では、年少こりす組の子どもたちが、滑り台やジャングルジムなどの絵が貼ってある大きなサイコロを転がしては、楽しそうに走っています。サイコロで出た遊具に登り、高いところから担任を呼ぶことも、楽しさの一つとなっているようです。中には、自分の行きたい場所の絵が出るまで、サイコロを転がし続けて、お気に入りの場所に行く子もいます。サイコロがきっかけとなって、何度も固定遊具まで走って登る姿を見ると、相当な運動量であることが分かります。子どもたちは、このような遊びを繰り返すたびに、手足の運び方が上手になっていることを実感しています。こりす組は、ジャングルジムの上から手を振ると応えてくれる担任とのつながりを確認し、安心して「またやろう。」と思っています。小さな成功体験の積み重ねにより、意欲が膨らんでいると感じます。

ホールでは、年長もり組の子どもたちが、大型遊具の巧技台を遊園地のように組み立てて、遊び場をつくりました。巧技台の梯子を腰の高さ程度に渡すと、梯子の上をどのように渡るのかを考える子が増えていきました。担任が「この渡り方、よく考えたね。」と受け止めたことも、自分流の渡り方をもっと考えようとする気持ちにつながったようです。もり組は、自分の努力を見てくれている担任の言葉に安心して、「次はこうしよう。」と思っています。中には梯子の下から足をくぐらせて体を上に出し、手の力で自分の体を支えながら梯子の上に登る方法を考えた子がいました。自分で考えたことが多少難しくても、やり遂げるまで何度も挑戦する意欲とたくましが育ち、手の力も鍛えられる遊びになりました。

このように、幼稚園では、自分から進んで体を動かしたくなる仕掛けやきっかけを意図的に保育の環境としてつくっています。自分から取り組みたくなる物を整えるだけでなく、そこに共に過ごす人が、どのように働きかけると、子どもたちの意欲が引き出せるのかという人的環境も重要です。これからも、子どもたちが、体を動かすことが楽しいと感じる心地よい体験で小さな達成感を積み上げていかれるように、子どもたちの関心を広げていく環境を整え、励まし支えてまいります。ご家庭でも、思い切り体を動かす機会を積極的につくってみてはいかがでしょうか。体を動かすことは、外で走ることだけではありません。タオルを絞ることや、階段を上ることなど、生活の中にも運動機能を使う場面があります。まずは、「体を動かす」ことを意識して、日頃の生活を見直し、身近なところで遊び心を加えると、子どもの関心が向きやすいかと思えます。体を動かした後は、おなかのすいておいしくご飯が食べられ、夜ぐっすり眠れるという、よい生活リズムづくりにもつながります。この夏、体力をつけて、暑さを乗り越えていかれるとよいですね。

4歳児 ・自分の好きな遊びを見付けたり、同じ場所にいる友達と一緒に遊んだりすることを
こりす組 楽しむ。

・水や砂の感触や気持ちよさを十分に楽しみ、開放感を味わう。

5歳児 ・友達との遊びの中で、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の話を聞いて受け
止めたりして、遊びを進めていく。

もり組 ・いろいろな水遊びに取り組む中で、考えたり試したりして遊ぶ楽しさを味わう。

今月の歌

☆ ヤッホッホ夏休み ☆

1 こんにちは 夏休み

さようなら お友達

ちょっと会えなくなるけれど

9月になったら また遊ぼう

※ ヤッホッホ夏休み ヤッホッホ夏休み

月 火 水 木 金 土 日

毎日 楽しい夏休み

2 こんにちは 夏休み

さようなら 先生

ちょっと弱虫だったけど

9月になったら もう泣かない

※ 繰り返し

3 こんにちは 夏休み

さようなら すべり台

寂しげに待っててね

9月になったら また滑ろう

※ 繰り返し